

第3学年授業の取組



10月29日(水)岩切小学校 小川 貴史先生
「太陽とかげの動きを調べよう」



2月4日(水)南材木町小学校 佐藤 深咲 先生
「じしゃくにつけよう」

運営責任者	仙台市立市高森東小学校	日下さだよ
	仙台市立鶴谷東小学校	武田 悠加
授業研究部	仙台市立太白小学校	板橋 宏明
	仙台市立七北田小学校	椎名 慶

1 研究テーマとの関連

(1) 児童が、科学する楽しさを体感し、実感の伴った理解を得させるために

- ・ 観察の結果を定量的にとらえ、法則性を児童に見いださせるための工夫
(連続的にかげを観察するための透明シートの活用など)

(2) 言語活動の充実のために

- ・ 条件に着目したり視点を明確にしたりして、自らの考えを顕在化させるための工夫
(考察のポイントを絞った視点の共有化をした話し合いなど)

2 研究の課題と方向

(1) 研究について

10月の授業研究について

(授業者 岩切小学校 小川 貴史先生 単元名「太陽とかげの動きを調べよう」)

本時は、観察結果から太陽は1日の間で東から出て、南の高いところを通り、西に沈むことをとらえるのがねらいだった。このねらいを達成するために、かげの連続観察を集積できる透明シートの活用、かげの動き、太陽の動き、この後どう動くかの3点に考察のポイントをしばった話し合いの、2つの手立てを立てた。その結果、透明シートはかげの動きの連続性をとらえるのに有効だということが分かった。話し合いも有効だったが、ワークシートに書き込む観点をノートは別にするよう指示したため、何を書いていいか迷った子どもがいた。竹ひごと粘土を使った実験器具も有効で、子どもたちは竹ひごの長さを変えることに気付き、高度と方位を関連づけて考えていた。しかし、長い竹ひごを折らなければならない点は工夫の余地があった。

議論になったのは、観察回数が3回で十分だったかどうかであった。南中時刻をあらかじめ調べて観察回数の真ん中にするるとよい、午前の観察開始の時刻を早める、5回観察するとイメージしやすいなどの意見が出された。ビデオライトを活用して太陽とかげの関係をとらえさせると実感をとった理解ができるという意見も出された。提案性の高い授業だったので、話し合いが深まった。

2月の授業について

(授業者 南材木町小学校 佐藤 深咲先生 単元名「じしゃくにつけよう」)

本時は、材質によって磁石に付く物と付かない物があることや、鉄が磁石に付く物であることを理解することをねらいとした。授業では、実験道具のイラストを用いたワークシートを使うことにより、はさみの金属部分と取っ手部分に分けて、付く()付かない(x)を記録するなど、視覚的に分かりやすく記録することができた。実験結果から考察する場面では、実験道具に材質を書いたシールを貼ったことにより、グループで材質に着目した話し合いが行われ、鉄とアルミニウムの違いに着目することができた。検討会では、「付く」=「持ち上がる」と判断した班もあるので「引き付けられる」手ごたえでも判断すべきだったこと、予想を言葉でも書かせると材質に着目でき、自分の考えをまとめるときに関連づけられたのではないかなどの意見が出された。考察の場面では、もっと調べたいこと不思議に思ったことを取り上げるための記入欄があると良かったなどの意見も出された。「鉄以外の金属は付かない」ことを追究するための様々なアイデアが出されるなど、有意義な会になった。

(2) 部会の運営について

- ・ 8月23日(木) 太白小学校において、指導案検討会
- ・ 10月29日(水) 太白小学校において、第1回研究授業・検討会
- ・ 1月16日(金) 南材木町小学校において、指導案検討会
- ・ 2月 4日(水) 南材木町小学校において、第2回授業研究・検討会